

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松川村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	枯損木早期発見事業
事業費		216,000 円 (うち支援金: 216,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

村内民有林面積の 38%を占める村内西側のアカマツ林において松くい虫被害が発生しており、特に近年は被害が増加傾向である。このため、被害状況を早期に把握し適期の伐倒駆除を進めるとともに、樹種転換等を総合的に進め、被害の拡大防止を図る必要がある。

(2) 本事業の目的

村内の松くい虫被害を早期に発見し、適期の伐倒駆除処理を行う事により、被害の拡大防止を図る。

事業内容

(1) 実施場所 村内全域のアカマツ林

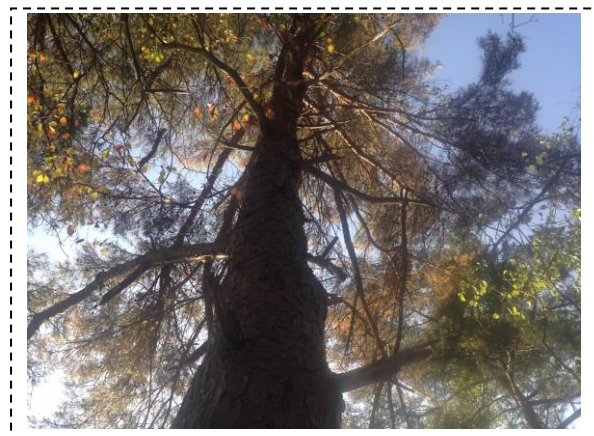
(2) 対象者 村内の山林所有者

(3) 実施方法 監視員による被害木監視活動 (5～9月の5カ月間)

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度) 毎年度 監視員 1 名

②平成 30 年度実績 監視員 1 名



事業効果

(1) 事業実施の効果

・松くい虫被害を早期発見することにより、徹底した伐倒駆除等の被害対策を的確に行う事が可能となるとともに、村内及び隣接する大町市や池田町への松くい虫被害の拡大を防ぐ。

(2) 継続性

・継続的に松くい虫被害を把握することにより、適切な伐倒駆除が可能となることから、松くい虫被害対策に有効な手法である。

(3) 普及性

・松川村の主要樹種であるアカマツを保全することにより、森林の多面的機能、優れた景観、森林資源及びマツタケ発生環境等の保全を図ることが可能となる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

・松くい虫の被害拡散防止として、現状として薬剤散布の実施が困難であり、早期の被害木発見による適期の伐倒駆除処理が最も有効な対策である。

(2) 課題

・適期の伐倒駆除の実施に向けては、一層の林業事業者や森林所有者との連携が必要である。
・温暖化等の影響により、標高 800m を超える高標高地で被害が散見される等被害エリアの拡大が見られているため、伐倒駆除に併せて樹種転換等の総合的な対策を実施する必要がある。
・伐倒燻蒸処理後の集積が幹線道路からの景観に影響していることから、被害材の利用を含めて搬出利用の検討が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

・引き続き、松くい虫被害の早期発見に努め、適切な伐倒駆除の実施による被害拡大防止を継続する。

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松川村

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	協働による森林づくり事業
事業費		539,191 円 (うち支援金: 390,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松川村の森林は、その多くが地域住民の手によって維持・管理されてきたが、近年は関心が低下しつつあり、森林の適切な整備が進まない状況にある。

(2) 本事業の目的

森林・里山への関心を高めるため、多くの観光客や村民が訪れる馬羅尾高原の森林整備を進める。特に、村子ども会育成連絡協議会と共催して「松川村山の日植樹祭」を開催する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 ・馬羅尾高原 (村有林)
- (2) 対象者 ・村民及び観光客
- (3) 実施方法 ・植樹祭の準備、森林遊歩道の整備
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

地拵え 2.5ha、馬羅尾高原清流の森 維持管理 1 式

②平成 30 年度実績

地拵え 0.5ha、馬羅尾高原清流の森 維持管理 1 式



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・馬羅尾高原において「松川村山の日」に植樹祭を開催し、小学生と保護者、村民、民間企業等の参加を促すことで、森林への関心を高めていく。
- ・馬羅尾高原内の清流の森遊歩道の整備を行い、多くの観光客等が森林散策等に活用しやすい環境を整える。

(2) 継続性

- ・5月第3土曜日が「松川村山の日」に制定されており、毎年度、多くの観光客が集まる馬羅尾高原において植樹祭を開催することにより、村民等の森林への関心を高めていく。

(3) 普及性

- ・植樹祭により森林への理解を深めるとともに、遊歩道の整備により、多くの観光客等が森林と触れ合う機会を提供する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・村として「山の日」を制定し、地域の里山の保全に取り組んでいる。
未来を担う小学生や地域の住民に林業を経験してもらうことにより、里山、森林への関心を高めることは非常に有意義なことである。

(2) 課題

- ・森林への関心を高める体験的な事業を多く開催していく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・今後も継続して実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)